

海蔵あくら

四日市市立海蔵小学校
校長室 だより
令和5年2月28日
第12号
文責 校長 柳川 洋史

呼びかけの言葉…

6年生を送る会が終わりました。リハーサル公開時には、多くの方にご参観いただきました。ありがとうございました。

今年度も、残り授業日は卒業式まで14日、3学期修了式まで17日となりました。

先日の送る会や卒業式で、所謂「呼びかけの言葉」が使われます。
「6年生の皆さん」「ご卒業おめでとうございます」
「思い出の修学旅行」「ドキドキした入学式」等々。

保護者の方におかれても、体験談をお持ちではないでしょうか。

この「呼びかけの言葉」が、卒業式等で定番になったのは、子どもたちのことを考えた歴史的経緯がありました。

昔の卒業式は、教育勅語奉読、町長祝辞、来賓祝辞がとても多く形式的なものでした。

そこで、ある校長が、子どもたち一人一人が本当の感動を得られるイベントにしようとあることを思いつきました。それが、「呼びかけ」でした。台本は校長が書いて子どもたちが演じていくという形でした。

この時の呼びかけは、卒業生はもちろん、在校生、教師、保護者にもセリフがあったとのことです。

昭和30年、日本で初めて群馬県・島小学校で「呼びかけ」方式の卒業式が行われました。



この取り組みを学んだ先生たちから、「呼びかけ」は、全国に広がりました。

68年前、群馬県の小さな小学校から始まった「呼びかけ」。卒業式の思い出として、現在も各地で受け継がれています。

卒業式…

日本では当たり前のように行われている「卒業式」ですが、世界的には珍しいようです。



卒業式とは、教育課程をすべて終了したことを認定し、そのお祝いをする式典です。

しかし、欧米では、大学の学位授与の式典はありますが、日本でわれているような各学校の終了ごとにお祝いをする式典は行われていないそうです。

知人のオーストラリアやアメリカ、南米、インドネシア出身の方に尋ねても、小学生年代の学校では、日本の卒業式のような行事はないとのことでした。

これは、日本と韓国のみで見られる習慣だそうです。当たり前のように行っていた卒業式が、世界的には、極めて少数派になります。

日本では、1872年の学制の施行に伴って、等級（学年）ごとに、試験修了者に対して卒業証書を授与したことに起源があるとのことでした。

それが、明治10年代ごろ、現在のような儀式として定着するようになったといわれています。現在では、みんなが毎日学校に通えますが、通えない子どももいた昔は、学年ごとにきちんと学問を習得した証を確かめる意味合いがあったのかもしれません。



明治8年7月1日、「海蔵学校」として、全校130名の児童数で開かれた本校。

明治～大正～昭和～平成～令和と続く歴史の中で、「海蔵尋常小学校（明治20年）」「海蔵尋常高等小学校（明治40年）」「四日市市海蔵尋常高等小学校（昭和5年）」「四日市市海蔵国民学校（昭和16年）」「四日市市立海蔵小学校（昭和22年）」「四日市市立山手小学校（昭和23年）」「四日市市立海蔵小学校（昭和24年）」と校名の変遷を経て、現在に至ります。

障子張りの教室、太鼓で授業の合図、わらじで湯の山まで遠足、戦災での校舎消失、チョーク1本からの授業再開、伊勢湾台風による講堂崩壊…幾多の時代を、人々に支えられ乗り越えてきたことが「海蔵小学校百年誌」に記されています。一部紹介させていただきます。

空襲

…（前略）…家を出るとき、すでに裏で焼夷弾が火を噴いていた。川原町通りを抜け、末永の墓地を通って自転車に乗ったり、押したり、伏せたりしながら末広橋まで30分位は要したと思う。学校にたどり着いたが…（中略）…職員室と宿直室も人影はなかった。何をしてよいかも頭にうかばなかった。…（中略）…20歳の若い山下先生がかけつけてきた。「危険だから逃げよう」「同じ死ぬなら校地内で死のう」等と話し、宿直室の布団を持ち出し、正門左の藤棚の下で頭からかぶってふせていた。ゴー、ドドドン「それきた！」ふとんをかぶった頭を上げると、パッと花が咲いたように屋根といわず運動場といわず1平方メートル当たり1個ぐらいの割合で炎をあげて燃えていた。一面火の海となったが…（中略…）中央昇降口、理科準備室に火の手が上がっていた。こうして僅か20分位で体操物置一棟を残して全焼した。…（後略）…

「海蔵小学校百年誌」より 一部抜粋 （昭和3年より23年まで勤務 藤谷茂さん）

昨年度までの海蔵小学校卒業生は、12027人。歴史の重みをかみしめ、学び合う学校があることに感謝し、令和5年3月20日、海蔵小学校卒業式を挙行いたします。